2027年３月期第２四半期
決算説明資料

株式会社 京 写

証券コード：6837

2026年 11月 18日

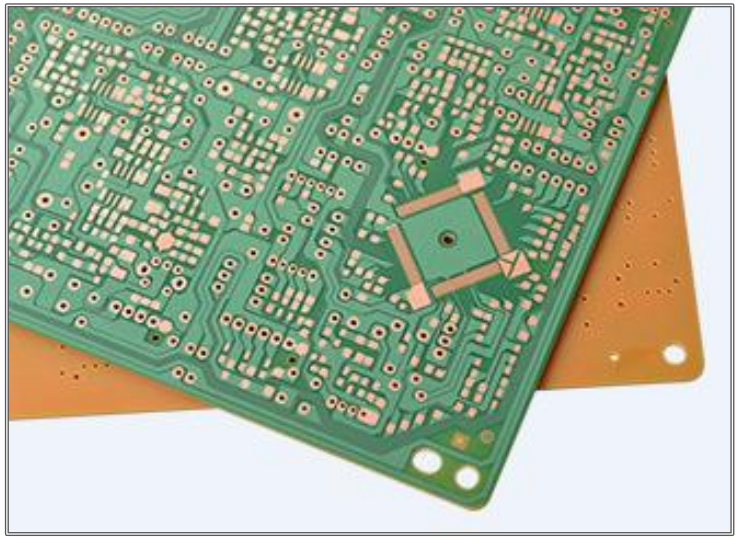
https://www.kyosha.co.jp/

目　次

１．2027年３月期第2四半期　決算概要

２．2027年３月期　業績予想

３．中期経営計画の進捗



1．2027年３月期 第2四半期 決算概要

2027年３月期第２四半期 連結決算業績

(単位：百万円)

連結	前期実績 (2026年3月期2Q)	**当期実績 (2027年3月期2Q)**	増減額	前期比
売上高	**12,351**	**13,610**	+1,259	110.2%
営業利益	**338**	**866**	+527	255.7%
経常利益	**219**	**679**	+460	309.8%
親会社株主に帰属する中間純利益	**107**	**444**	+336	411.3%
営業利益率	**2.7%**	**6.4%**		

為替レート	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ(US$)	146.04	159.37	13.33	109.1%
	ﾍﾞﾄﾅﾑ(US$)	148.60	158.18	9.58	106.4%
	中国･香港(HK$)	19.07	20.22	1.15	106.0%

■ **決算総括 ➡ 連結増収･大幅増益**

■ **国内の状況 ➡ 増収･増益**

・基板は家電製品や新規の自動車向けの売上好調、金属基板の生産本格化により増収
・実装関連はAIサーバー等の産業機器、航空機向け受注好調
・原材料・製造経費等の高騰に対し、基板の販売価格適正化の取り組みと実装事業の増収により増益

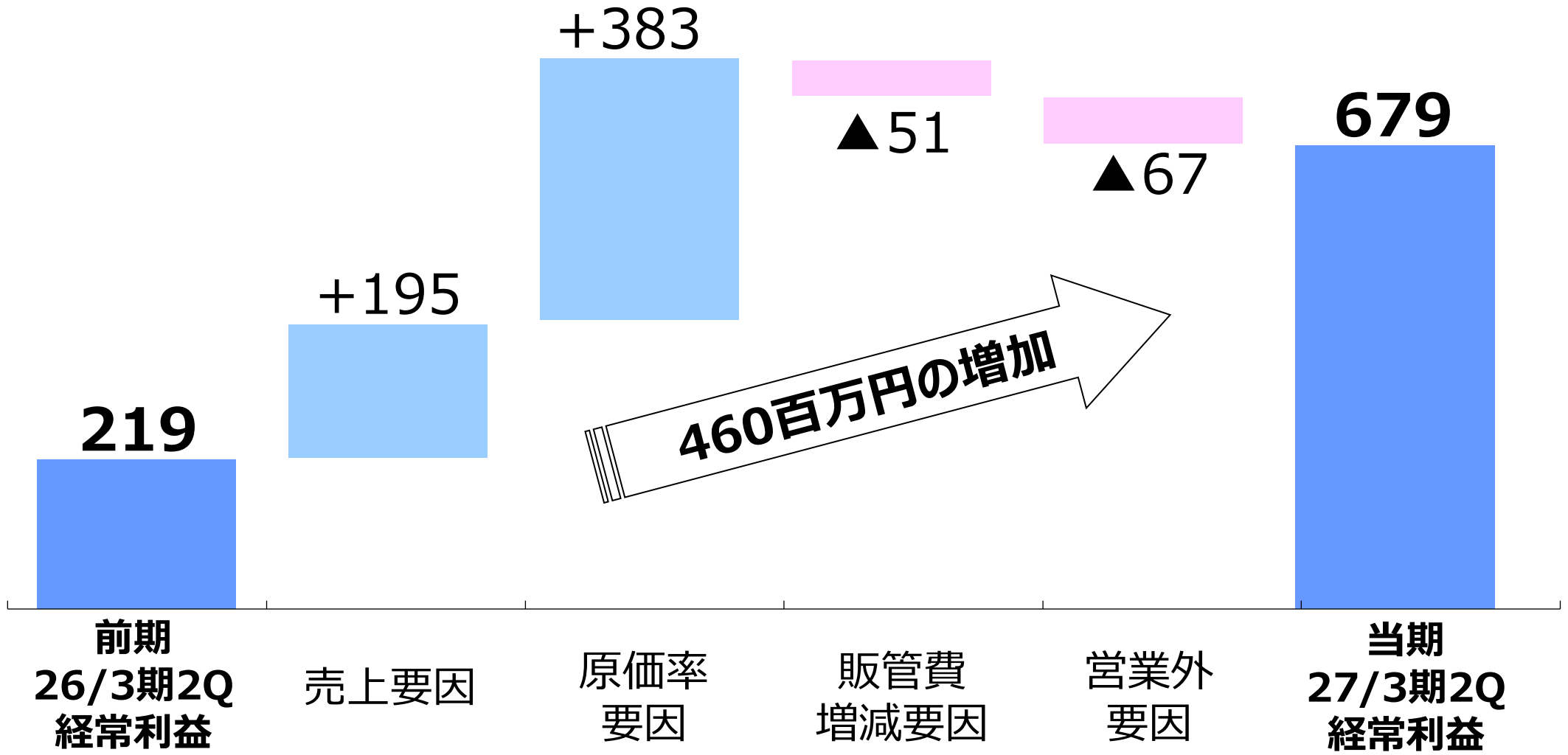
■ **海外の状況 ➡ 増収･増益**

・インドネシアで事務機分野を中心に大幅受注増加
・中国は輸出を中心に自動車、家電製品の受注増加
・インド向け自動車分野が堅調

経常利益の前期比較

■引き続きコストの高騰に対し、販売価格の適正化の取り組み及びインドネシア工場の増産等により増収増益

（単位：百万円）



地域別セグメント業績

拠点		前期実績 (2026年3月期2Q)		当期実績 (2027年3月期2Q)		増減	
		百万円	利益率	百万円	利益率	百万円	率
連結	売上高	**12,351**	2.7%	**13,610**	6.4%	+1,259	+10.2%
	営業利益	**338**		**866**		+527	+155.7%
日本	売上高	**5,222**	–	**5,810**	4.3%	+588	+11.3%
	営業利益	**△ 62**		**248**		+311	–
中国	売上高	**6,482**	6.7%	**6,928**	7.8%	+445	+6.9%
	営業利益	**431**		**541**		+110	+25.5%
インドネシア	売上高	**1,302**	–	**2,014**	6.8%	+712	+54.7%
	営業利益	**△ 126**		**136**		+262	–
メキシコ	売上高	**76**	4.7%	**49**	–	△ 26	△34.7%
	営業利益	**3**		**△ 1**		△ 4	–
ベトナム	売上高	**1,990**	2.1%	**1,996**	–	+6	+0.3%
	営業利益	**41**		**△ 96**		△ 138	–

※売上高にセグメント間の内部取引高を含む

概要

【日本】基板:家電製品、新規の自動車等で増収、原材料等の高騰に対し販売価格適正化の取り組み
実装:AIサーバー向け産業機器、航空機向けの受注好調

【中国】輸出を中心に自動車、家電製品向け受注増加

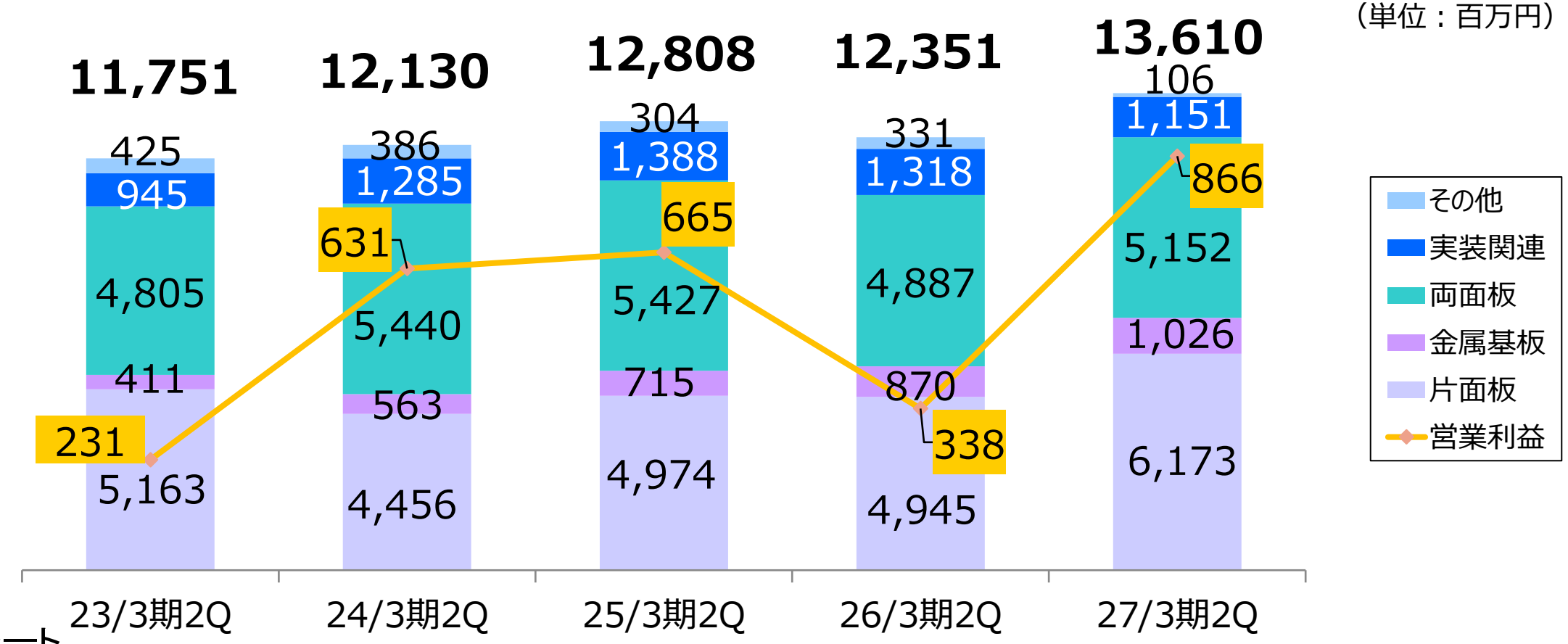
【ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ】事務機分野を中心に大幅受注増加

【ﾍﾞﾄﾅﾑ】インド向け自動車は増加も、タイ・ベトナム向け自動車の受注減
製造経費等の増加で減益

製品別売上高推移

■家電製品、事務機向け好調で片面基板が増加、自動車、電子部品向け金属基板の増加

（単位：百万円）



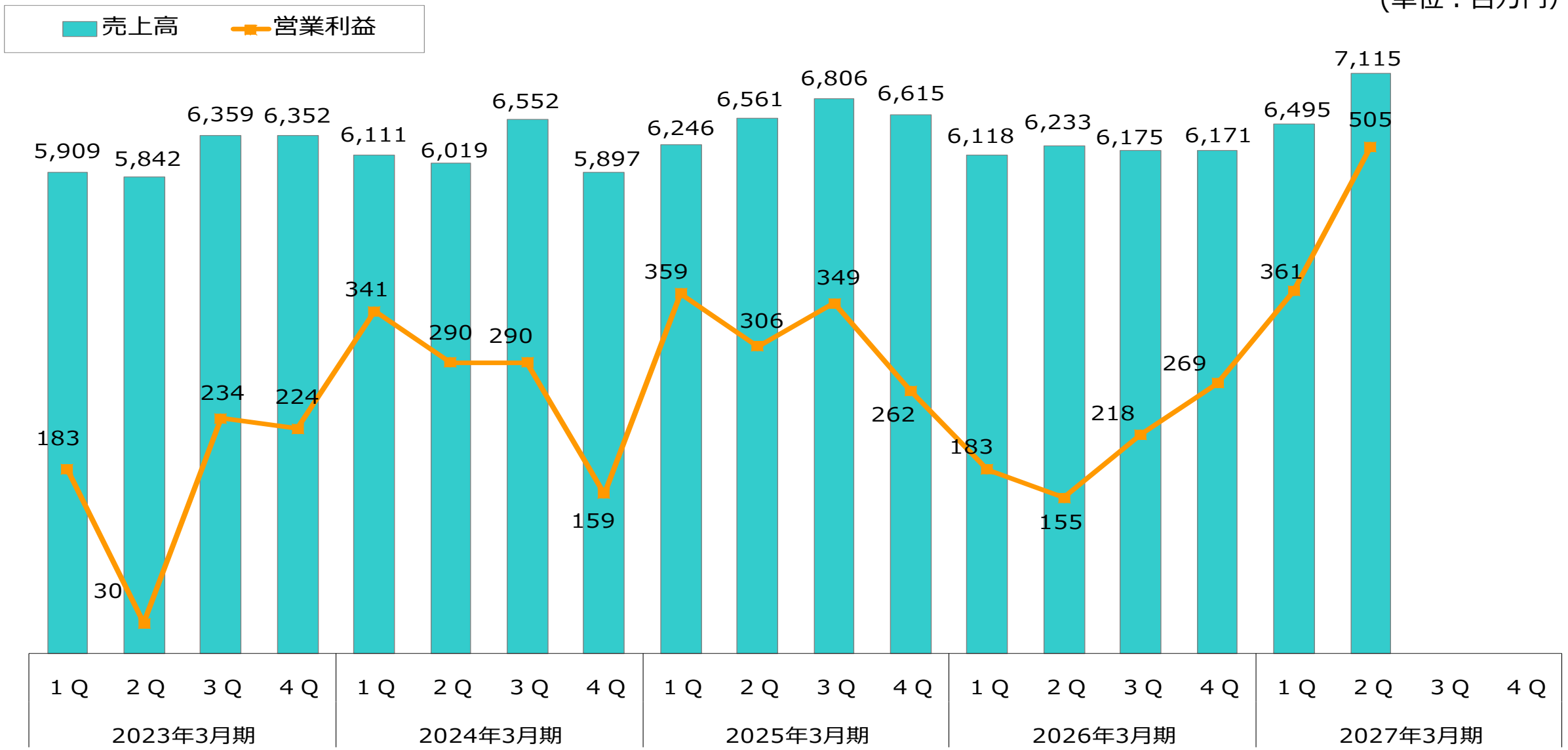
為替レート

	2023年3月期2Q	2024年3月期2Q	2025年3月期2Q	2026年3月期2Q	2027年3月期2Q
インドネシア: US$	133.97	141.00	152.63	146.04	159.37
ベトナム: US$	122.89	134.85	152.25	148.60	158.18
中国・香港: HK$	15.70	17.20	19.47	19.07	20.22

※両面板に多層板と銀ｽﾙｰﾎｰﾙ基板を含む

四半期毎の業績推移

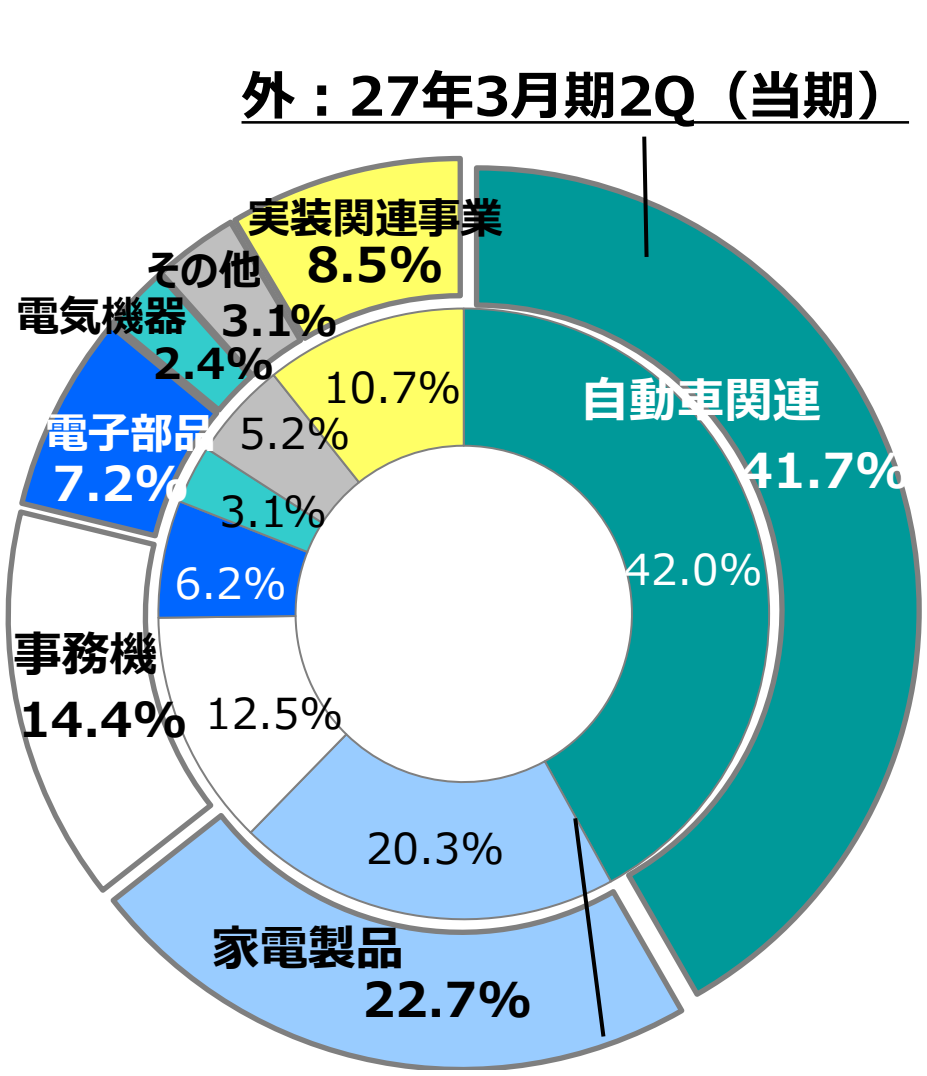
(単位：百万円)

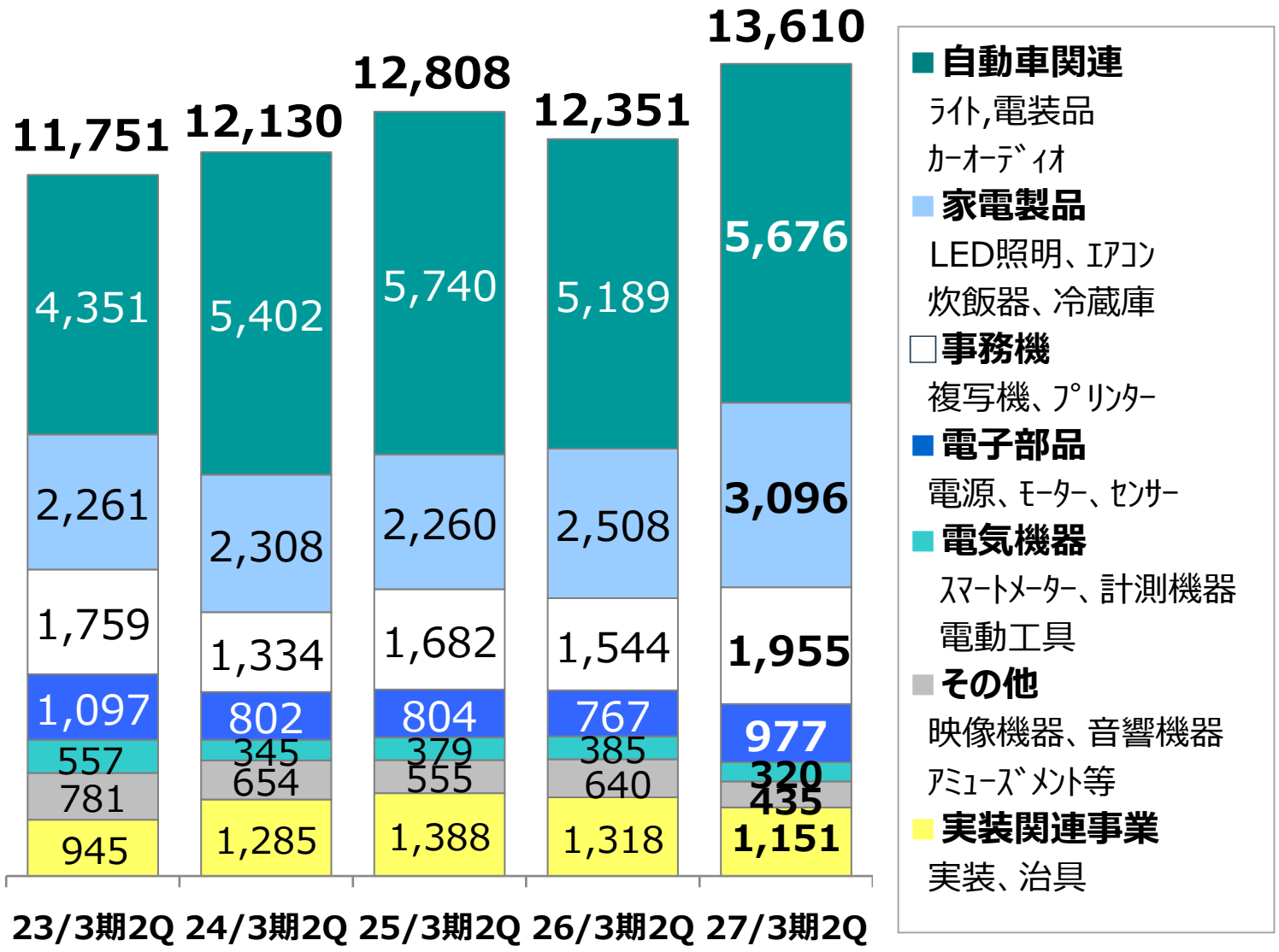


用途別売上高

■主力の自動車関連、家電製品、事務機の増加

(単位:百万円)

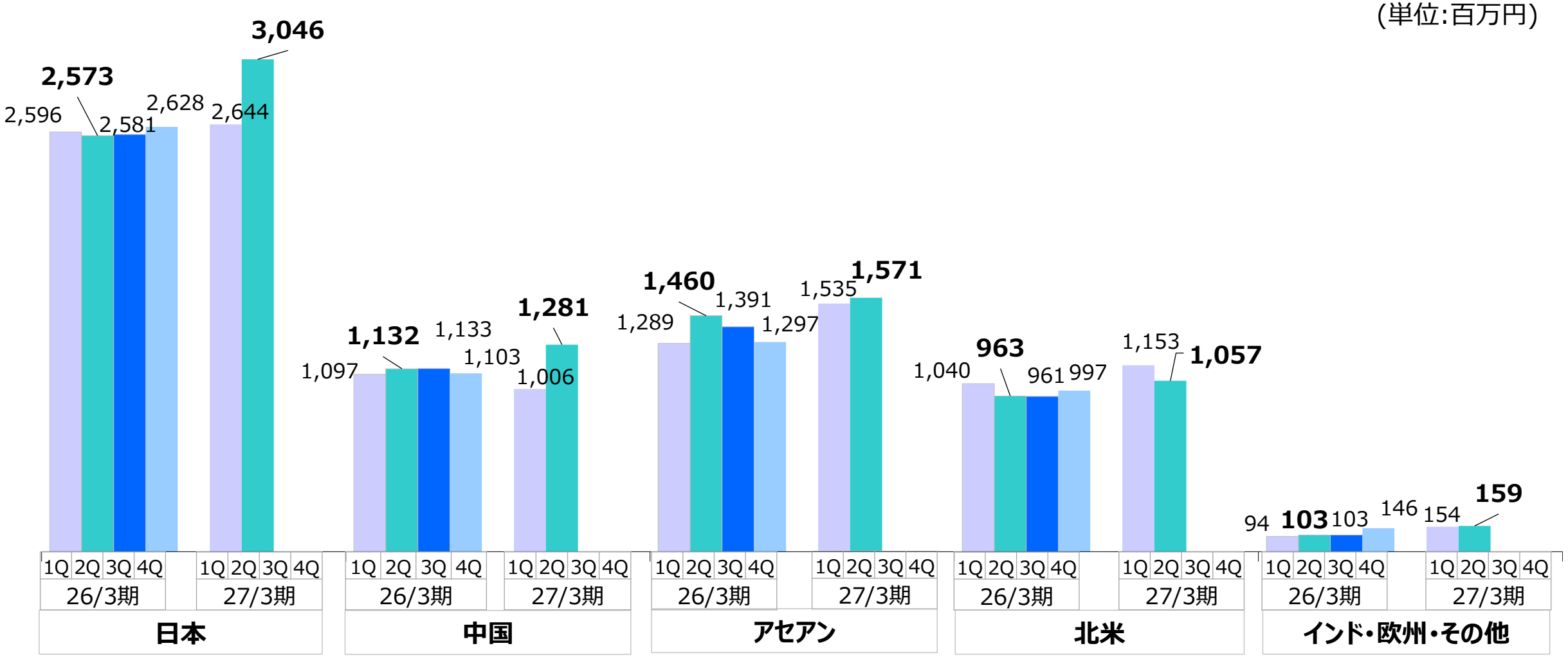




販売地域別売上高推移

■前期2Q比、全地域向け増加（海外比率約60%）

(単位:百万円)



貸借対照表

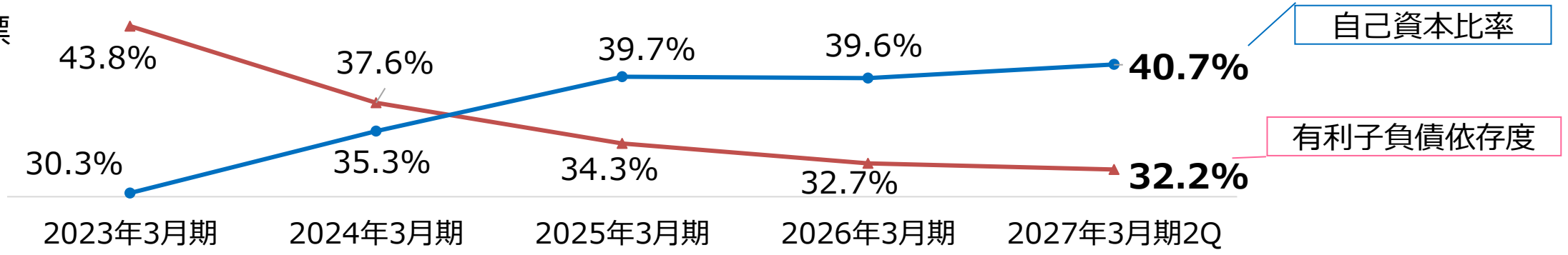
（単位：百万円）

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期2Q	前期比増減
資産合計	**23,879**	**23,340**	**24,754**	**24,961**	**26,209**	**+1,247**
流動資産	15,950	15,050	15,834	16,333	17,604	+1,271
棚卸資産	**4,634**	**4,108**	**4,407**	**4,893**	**5,673**	**+779**
固定資産	7,929	8,290	8,920	8,628	8,604	△ 24
負債合計	**16,432**	**14,879**	**14,654**	**14,823**	**15,273**	**+449**
流動負債	10,884	9,491	9,774	10,338	11,246	+907
固定負債	5,548	5,388	4,880	4,485	4,027	△ 457
有利子負債(長短)	**10,456**	**8,780**	**8,486**	**8,162**	**8,435**	**+273**
純資産	**7,446**	**8,461**	**10,100**	**10,137**	**10,935**	**+797**

為替レート

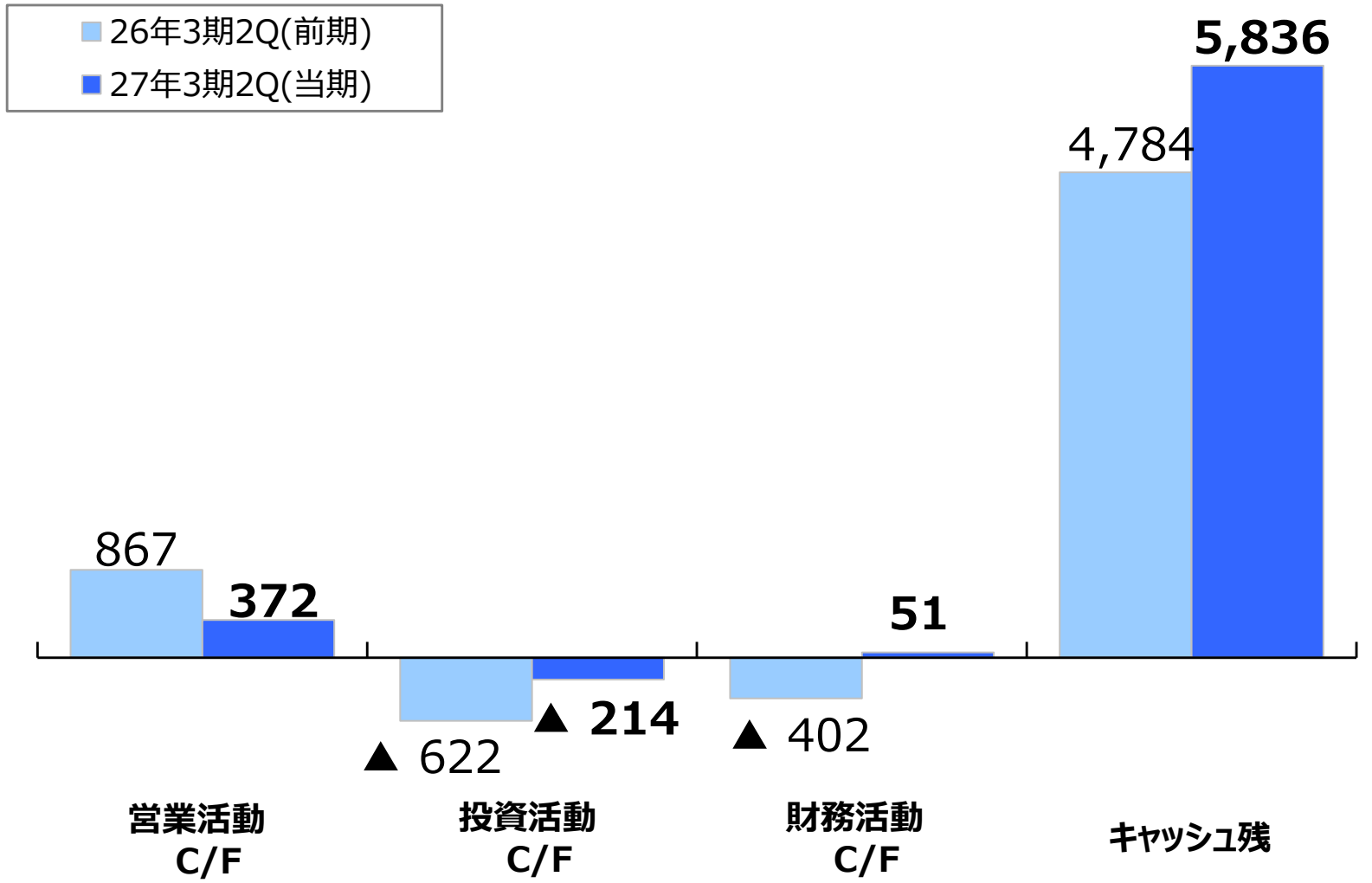
インドネシア：US$	133.53	151.41	149.52	159.88	**157.35**	**△ 2.53**
ベトナム：US$	132.70	141.83	158.18	156.56	**162.39**	**+5.83**
中国･香港：HK$	17.02	18.15	20.38	20.13	**20.71**	**+0.58**

■経営指標



キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）



<特記事項>

営業活動C/F	**372 百万円**
税引前利益	675百万円
減価償却費	569百万円
売上債権の増加	▲476百万円
棚卸資産の増加	▲692百万円
仕入債務の増加	111百万円
利息の支払額	▲154百万円
法人税等の支払	▲153百万円
投資活動C/F	**▲214百万円**
有形固定資産等の取得	▲200百万円
各社 生産設備	
財務活動C/F	**51百万円**
短期借入金純増減	652百万円
長期借入金純増減	▲406百万円
配当金の支払	▲72百万円

2．2027年３月期 業績予想

2027年３月期 連結業績・配当予想の修正

(単位:百万円)

連結	業績予想 (2027年3月期)							(参考)
	11/13 今回公表	前期 増減率	8/7 前回公表	増減額	増減率	当第2四半期 実績	進捗率	前期 通期実績
売上高	**28,000**	+13.4%	25,000	+3,000	+12.0%	13,610	49%	24,697
営業利益	**1,750**	+112.0%	1,100	+650	+59.1%	866	49%	825
経常利益	**1,400**	+155.8%	800	+600	+75.0%	679	49%	547
親会社株主に帰属する当期純利益	**900**	–	430	+470	+109.3%	444	49%	78
配当予想(円)	**19.00**	+10.00	9.00			–	–	5.00
配当性向(%)	30.4%		30.5%			–	–	93.0%
US$為替(ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ)	159.37		150.00			159.37		150.77
US$為替(ﾍﾞﾄﾅﾑ)	158.54		150.00			158.18		149.71
HK$為替(中国･香港)	20.25		19.30			20.22		19.20

■修正理由：国内外でLED照明等の家電製品や自動車、金属基板の受注が好調。インドネシアで事務機分野等の受注好調、実装関連はAIサーバー向け等の産業機器や航空機向け受注が引き続き好調に推移する見込み。
　下期は中東情勢の不安定化やAI関連の需要増により、更なる原材料価格の高騰、供給制約が懸念も、上記見通しや販売価格の適正化の取り組み等により、前回予想を上回る見通し。

■配　　当：上記理由により、配当予想を10円増配し、19円とします。

３．中期経営計画の進捗

長期ビジョン2036 (2036年3月期)

長期ビジョン2036

印刷技術と熱対策技術を強みに
お客様の製品開発から深く関わり
新しい価値を生み出す挑戦企業であり続ける

・京写のコアコンピタンスである**印刷技術**を活かし、電子デバイスを製造する**PE技術**(Printed Electronics技術)に取り組み、新たな製品開発を進め、環境負荷低減や低コスト化の市場ニーズに対応します。

・**熱対策技術**を強みにAIサーバー、EV、パワー半導体分野で拡大する放熱需要に応えます。

・プリント配線板、治具・実装において、**製品の設計・開発やリサイクル**を強化することで、各フェーズでお客様と深く関わり、最適なソリューションを提供します。

・これにより社会課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献します。

中長期経営目標

26年3月期 実績

売上高　246億円
営業利益　8.2億円
利益率　3.4%
ROE　0.8%

3年目29年3月期 中期経営目標

売上高　280億円
営業利益　20億円
利益率　7%
ROE　10%

10年目36年3月期 長期経営目標

売上高　400億円
営業利益　40億円
利益率　10%
ROE　10%

＜中期経営計画の位置づけ＞

事業基盤の強化・構造改革

成長を支える分野への挑戦

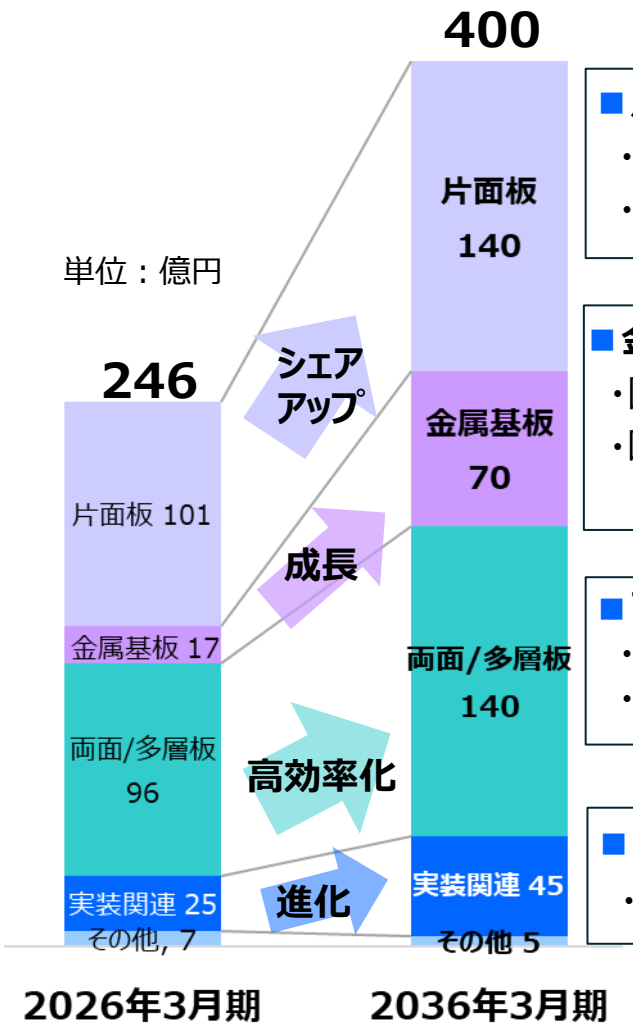
＜10年後の姿＞

印刷技術と熱対策技術で設計・開発からリサイクルの全プロセスで最適なソリューションを提供

長期経営戦略

■グローバル市場における成長分野で印刷技術と熱対策技術により市場ニーズに対応する

事業別販売ビジョン



■片面板：グローバル市場でのトップブランド
- ・インド市場の白物家電向け需要取り込み
- ・アセアンOAや白物家電向け拡販

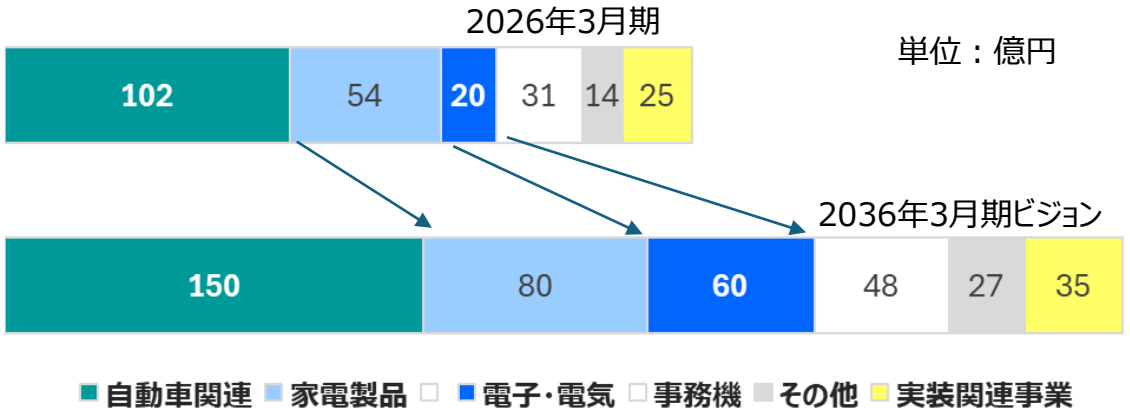
■金属基板：成長市場での事業拡大・高収益化
- ・国内外生産ライン増設
- ・欧州顧客へ車載向けインバーターやAIサーバー電源等の電子電気機器向け拡販

■両面・多層板：高効率化、供給能力拡大
- ・ベトナム工場増設
- ・提携先から調達販売拡大、ラインアップ強化

■実装関連：新領域への展開
- ・半導体、医療向け新分野への拡販

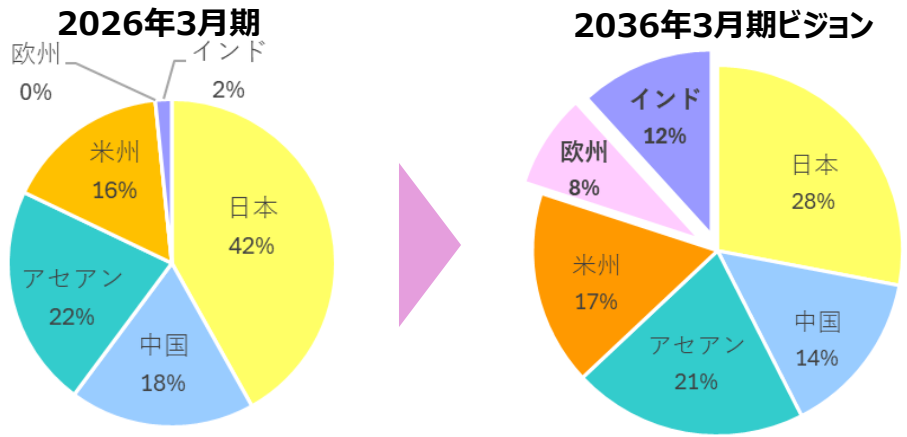
用途別販売ビジョン

・自動車、家電、電子・電気機器向けの販売拡大



地域別販売ビジョン

・成長地域のインド、欧州地域の販売拡大



中期経営計画2029　（2027年3月期～2029年3月期）

収益力強化　新規分野への挑戦で
更なる成長に向けた事業基盤の確立

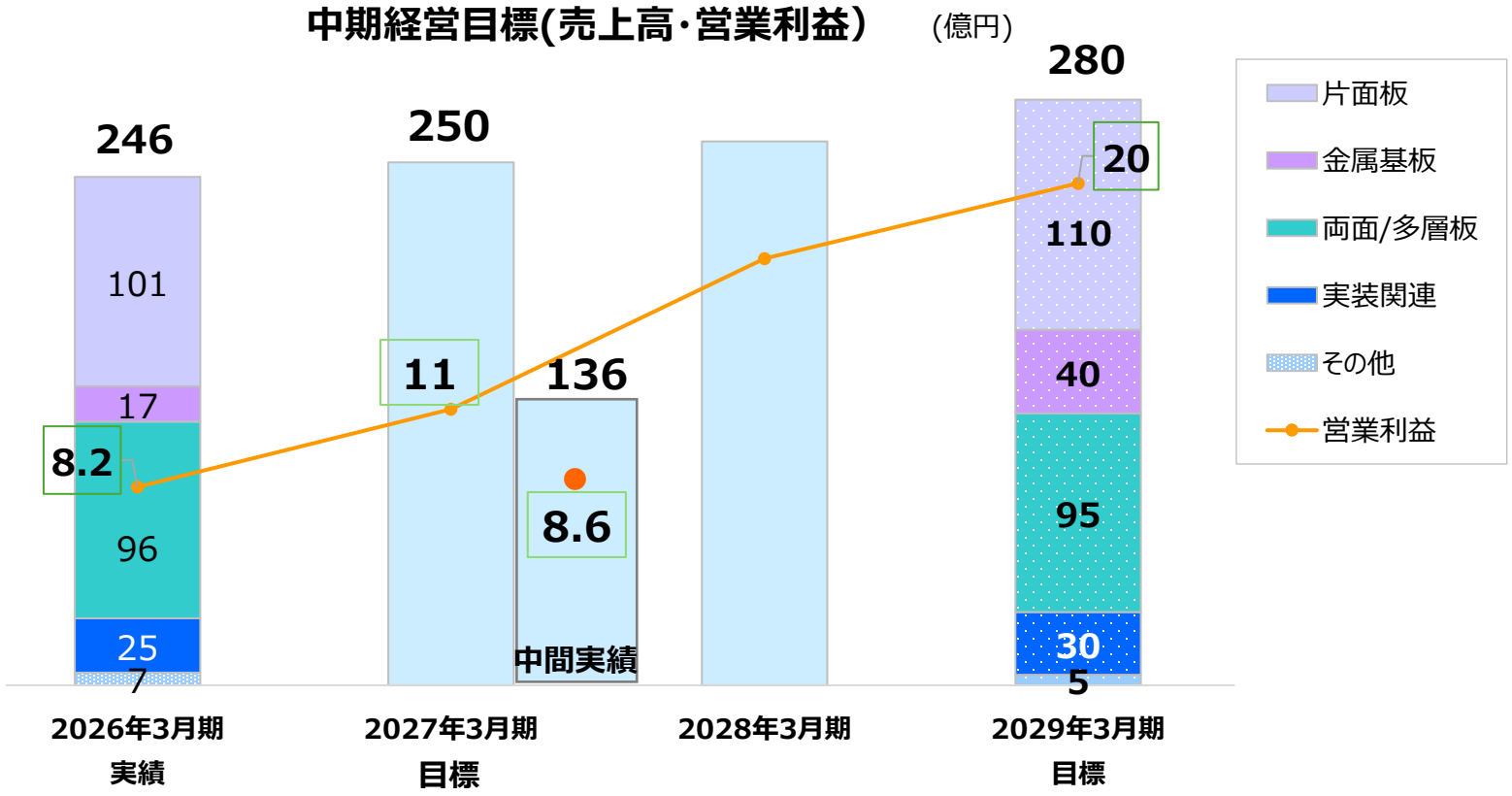
この3年間で構造改革をやり遂げ、新市場への展開や高付加価値製品の開発等、成長分野への挑戦やＤＸ・ＡＩを積極活用し、生産性向上への取り組みを続け、更なる成長に向けて事業基盤の確立を推進します。

中期経営目標

２０２９年３月期　目標

売上高	営業利益	営業利益率	ROE	配当性向
２８０億円	２０億円	7%	１０%	３０%

(為替ﾚｰﾄ:1US$150円)

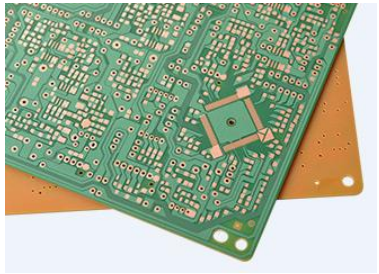


中期基本戦略

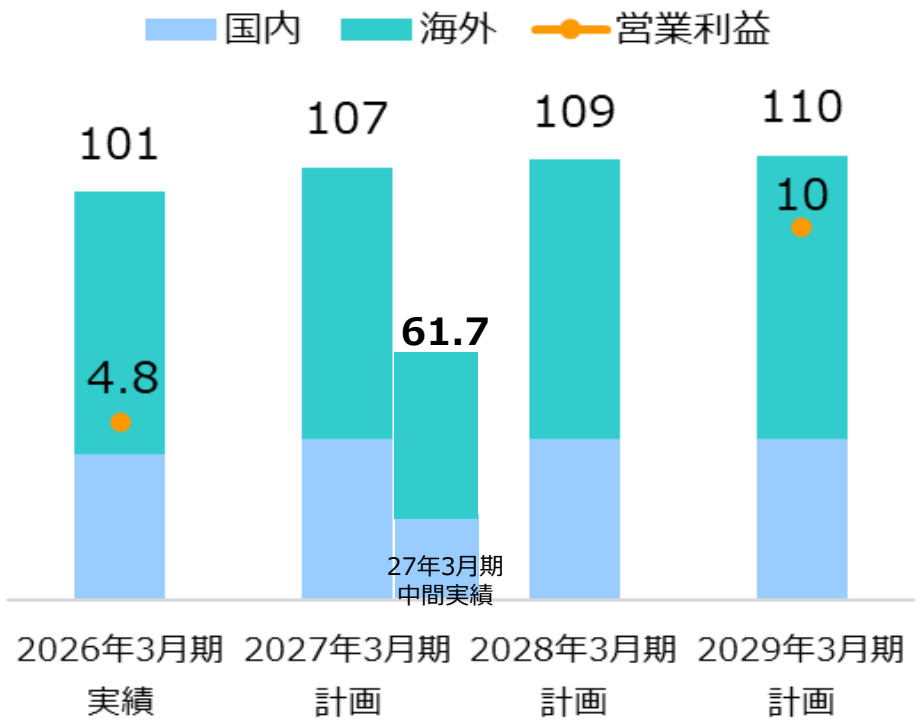
	事　業		戦　略	KPI（重要業績評価指標） 項 目	2029年3月期 目標	2027年3月期 中間実績
基盤強化	既存事業	片面板	**市場トップシェアによる利益最大化** ➡新市場の開拓、更なる生産技術の追求	**インド、アセアン 売上年平均 成長率**	**10%**	**前期中間比 インド48%増 アセアン13%増**
		実装関連	**特定市場・用途の開発によるブランド確立** ➡パートナー連携、開発営業によるソリューションの提供	**治具新用途 売上**	**3億円/年**	**—**
構造改革		両面板	**構造改革による収益基盤の再構築** ➡国内生産拠点の集約、ﾀｰｹﾞｯﾄ市場・用途の絞り込み	**国内生産 移管進捗率**	**100%**	**進捗率15%**
成長投資	新規事業	金属・厚銅基板	**技術開発による成長事業の拡大** ➡生産技術力（印刷、加工）、材料メーカーとの連携	**売上年平均 成長率**	**30%**	**前期中間比 18%増**
経営基盤の強化 ・DX推進・ESG経営（環境対応・人材育成の強化・ガバナンス/コンプライアンスの強化）				**1人当たり 生産性**	**2026年3月期比 15%UP**	**1人当り 生産金額 13.1%UP**

片面板事業戦略　2029年3月期　（27年3月中間期進捗）

事業戦略：市場トップシェアによる利益最大化
売上目標：110億円　（国内40億円、海外70億円）
利益目標：10億円



片面板売上・営業利益目標（億円）



販売戦略

- **グローバル日系需要の確実な取込みによる販売底上**
- **国内蛍光灯廃止に伴うLED照明切り替え需要取込み**
- **インド市場及び脱中国アセアンシフトの需要取込み**
  （OA・白物家電市場）
- 非日系顧客開拓への再挑戦（インド、中華、欧州系）

製造戦略

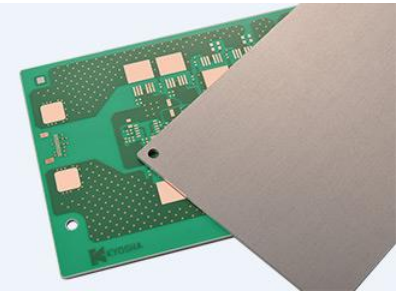
- 九州工場の拡張投資による生産性向上
- 中国工場から全工場への生産技術の横展開
- 材料メーカーとのパートナーシップ構築

技術戦略

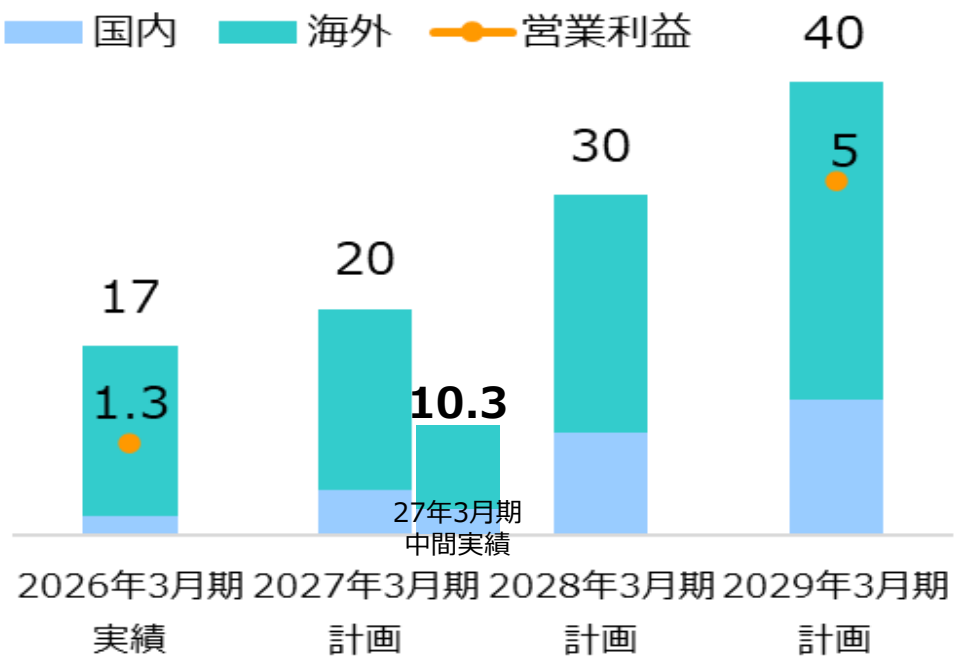
- 片面複層基板の技術確立、機能基板の市場開拓

金属基板事業戦略　2029年3月期　（27年3月中間期進捗）

事業戦略：技術開発による成長事業の拡大
売上目標：40億円（国内:12億円　海外28億円）
利益目標：５億円



金属基板板売上･営業利益目標　（億円）



販売戦略

- **放熱用：LEDヘッドライト**、照明向けの金属基板需要増の取込み
- 大電流用：自動車電動化市場の拡大によるEVパワーユニット、パワー半導体、AIサーバー電源向け厚銅基板の拡販
- 欧州非日系向け自動車用金属基板の拡販
- 有力材料メーカーと協業による新市場の開拓

製造戦略

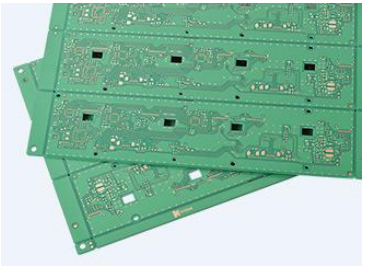
- 九州工場の拡張投資によるアルミ基板専用生産ライン導入
- 京都工場厚銅基板生産ライン導入、量産体制確立

技術戦略

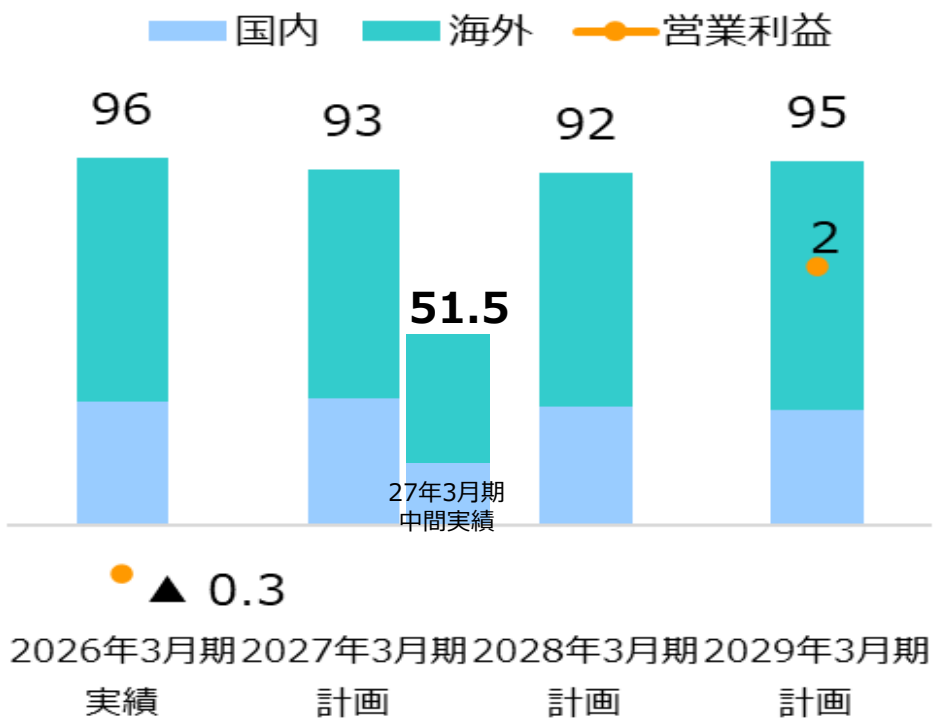
- 生産技術（工法、プレス加工）の向上による差別化

両面板事業戦略　2029年3月期　（27年3月中間期進捗）

事業戦略：構造改革による収益基盤の再構築
売上目標：95億円（国内：30億円　海外65億円）
利益目標：２億円



両面板売上･営業利益目標（億円）



販売戦略

- ･工場最適化により自動車、家電市場の更なる深堀
- ･未開拓市場（医療系/アミューズ等）への参入による増販
- ･海外提携先の再構築による販売機会の創出
- ･インド、欧州系向け自動車用需要の開拓

製造戦略

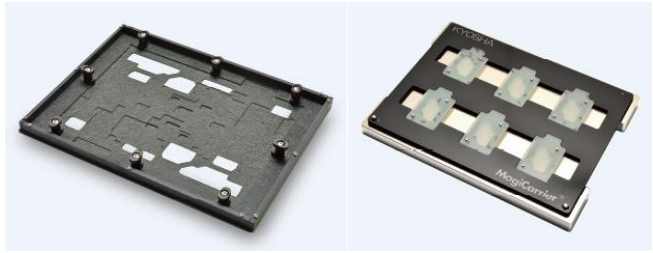
- ･国内量産２工場体制を新潟工場に集約
- ･京都工場は技術商品、試作、少量多品種、治工具生産
- ･ベトナム工場、生産技術の新工法導入による競争力強化

技術戦略

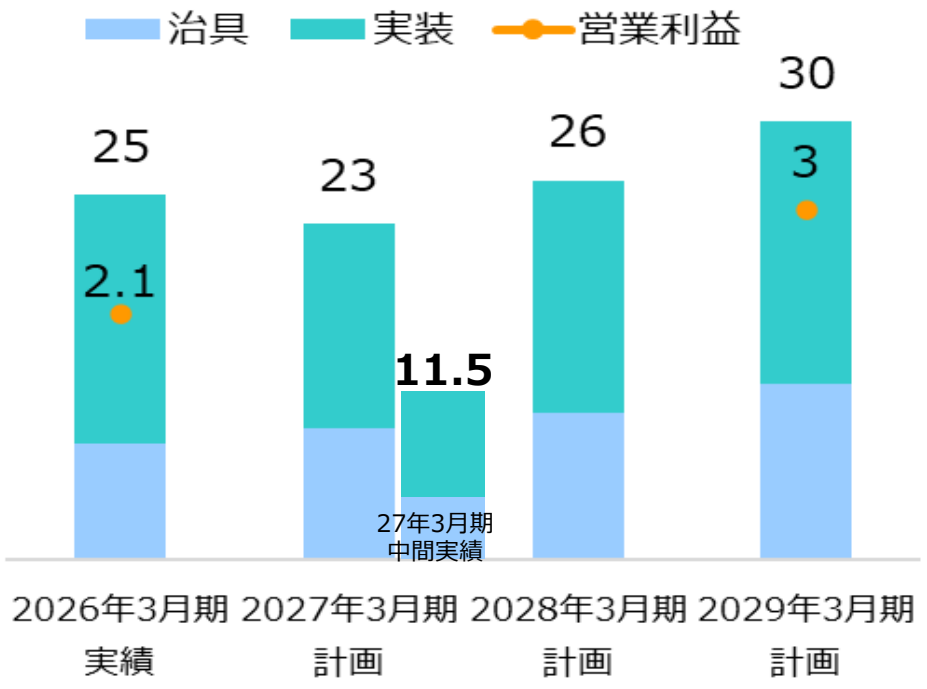
- ･資源リサイクルシステムの導入（ベトナム）
- ･両面複層基板の技術確立、機能基板の市場開拓

実装関連事業戦略　2029年3月期　（27年3月中間期進捗）

事業戦略：特定市場･用途の開発によるブランド確立
売上目標：国内：30億円（治具12億円、実装18億円）
利益目標：３億円



実装関連売上･営業利益目標（億円）



販売戦略

- 半導体、医療向けなどの新用途の開拓
  治具ラインアップ強化(切削、粘着)による拡販
- 製品開発段階からのソリューション提案による拡販
  京写グループ及び協力会社との連携強化によるワンストップ体制
  (設計、基板、治具、実装)による拡販

製造戦略

- **AIを活用したスマートファクトリー化**
- 製品設計機能の構築

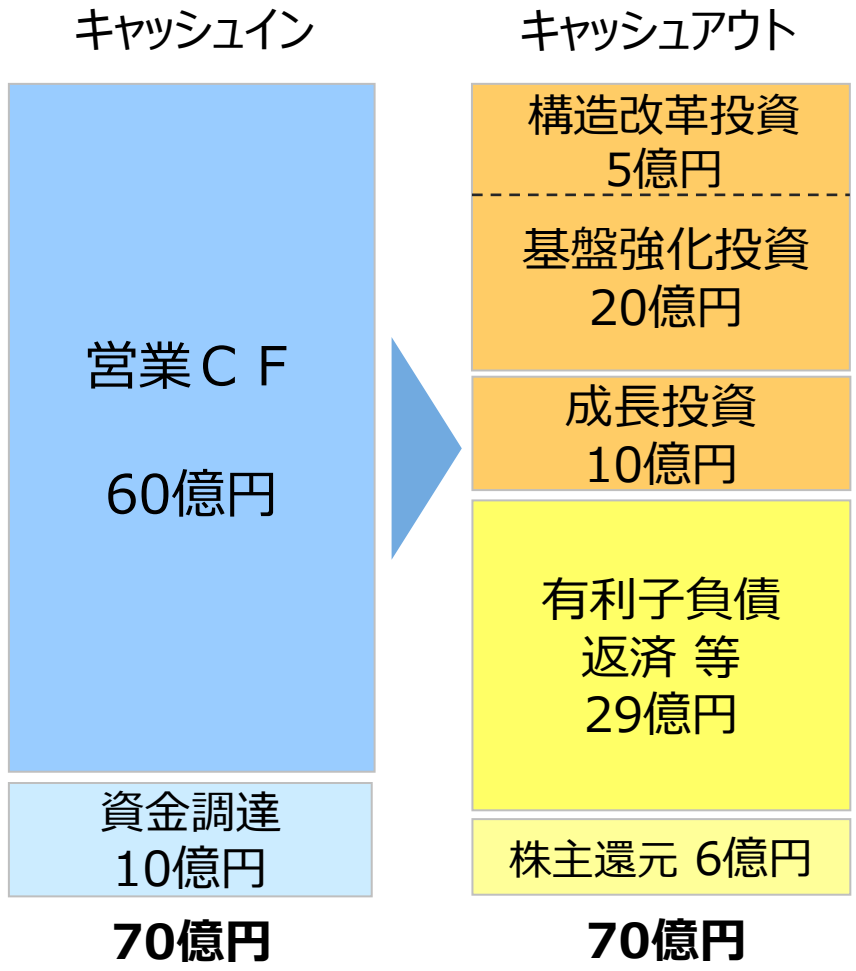
技術戦略

- 金属加工技術の追求

資本政策　キャッシュアロケーション

■営業キャッシュフローを構造改革/基盤強化/成長投資に優先配分し、安定した株主還元を実施

2027/3期～2029/3期累計



■構造改革投資　5億円
・日本　　両面板事業再編、治具生産投資

■基盤強化投資　20億円
・日本　　片面板、実装治具事業の自動化投資
・中国/ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ　生産性改善・自動化投資
・ﾍﾞﾄﾅﾑ　新工法・自動化、銅廃液リサイクル投資

■成長投資　10億円
・日本　　金属・厚銅基板量産体制構築
　　製品の設計・開発の強化

■有利子負債の圧縮
・着実なCF創出による有利子負債の返済
・グループ再編による資金還流効率化

■安定・持続的な株主還元
・配当性向30%目安
成長投資の計画的な実施と安定的・継続的な株主還元を行う

経営基盤の強化　DX・AIの活用推進

■DX・AIの活用推進による業務効率化、競争力の向上、経営基盤の強化

■生産性向上
・製造実行システムの構築
・リアルタイムでの生産管理
・品種別標準原価管理



■サプライチェーン最適化
・調達価格情報の電子化及びAIを活用した適正価格の早期化
・データベースマーケティング
・インターネットマーケティング

■業務効率化の取り組み
・事務処理のAI・DXによる自動化
・電子化による承認業務の効率化

■経営判断の早期化
・経営情報のリアルタイムでの可視化
・連結決算の早期化、グループ各社業績可視化

業績見通しについて

本資料には、当社グループの将来の計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれています。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信にもとづく見込みです。

また経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実性も多分に含んでいます。それゆえ実際の業績は当社の見込とは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

<お問い合わせ先>
株式会社京写
経営管理本部　経営企画部
HP: https://www.kyosha.co.jp
TEL:075-631-3193
FAX:075-631-8370
E-MAIL: ir@kyosha.co.jp